

幼児教育長期派遣通信 1学期号

発行 令和2年8月17日

坂町立横浜小学校 舞 幸江（派遣園：社会福祉法人微妙福祉会坂みみょう保育園）

幼児教育長期派遣研修とは、小学校教員が園・所等で幼児教育の実践の体験をしたり、園外での研修を行ったりすることを通して、幼児期の育ちと学びを理解し、小学校での学びにつなぐ教育活動が実践されることを目的に行われています。1学期号では、遊びの中で見つけた学びについて紹介します。

1 1学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・0歳児～5歳児の様子を観察し、5つの力を手掛かりに小学校での育ちと学びへのつながりを考察。
- ・環境の構成、保育内容や保育者の意図についての考察。
- ・園内行事への参加 進級式、入園式、誕生日会、お泊り保育、避難訓練
- ・園内研修への参加 乳幼児教育について、支援を要する子供をもつ保護者の対応について、新規採用者研修への参加








(2) 園外研修

- ・幼児教育理解に係る研修会
- ・所属校におけるスタートカリキュラム参観
- ・接続に係る研修会
- ・長期派遣研修報告会

2 実践を通して

長期派遣研修の役割の一つに、乳幼児期からの保育・教育の積み重ねを基盤として、連続性・一貫性のある接続カリキュラムを作成し、幼児教育から小学校以降の教育への円滑な接続を図ることがあります。連続性・一貫性を切らないためには、幼児期にどんな力が育まれているか知る必要があります。実際に園で子供たちと一緒に生活することで、子供たちには予想以上の多くの学びがあることが分かりました。

毎日の遊びには学びがいっぱい 3つの資質・能力が育成されていた！！

事例1 3歳男児 (6月)			
今日は何して遊ぼう？ (遊びを探す=学びに向かう力、人間性等)	竹の遊具で遊ぼう。 (遊びを選ぶ=学びに向かう力、人間性等)	今日は上まで登ってみたいな。 (好奇心=学びに向かう力、人間性等)	登れそうだけど、難しいな。足をここにかけると登れるかな。 (予想=思考力・判断力・表現力等の基礎)
			
やったー登れた。 (身体感覚の育成=知識及び技能の基礎)	次は、ここを登ろう。この前までは、立って登れなかったよ。 (やってみよう=学びに向かう力、人間性等) (比較=思考力・判断力・表現力等の基礎)	友だちのようにやってみよう。 (他の考えに触れる=思考力・判断力・表現力等の基礎)	やったー。できた。手を広げたら登りやすいぞ。 (登り方のコツを見付ける=思考力・判断力・表現力等の基礎)

男児は、進級当初の4月からこの遊具で遊んでいました。上手に遊ぶ上級生のようになりたいと彼らを真似しながら遊んでいても、すぐに落ちるか、必死に竹にしがみ付くか、四つん這いで登るかでした。しかし、3か月間、園で毎日遊び込む生活を送り、経験を重ね、体力を付け、自分で思考する力を育み、上まで登ったり、立ったまま登ったりすることができるようになりました。

事例2 5歳児クラス（7月）



友だちがやっていた遊びが楽しそうだったな。今日はあれをやろう。(遊びに気付く＝知識及び技能の基礎)



友だちと一緒にピタゴラススイッチを作ろう。
(目的の共有, 協力＝学びに向かう力, 人間性等)

「坂になったね。」「ビー玉が転がりそうだね。」



「真っすぐころがったね。」「最後のところは、溝に入れたいね。」「どうしたら入るかな。」

間にビー玉が入らないかな。ちょっと変えてみようかな。
(試行錯誤, 工夫＝思考力・判断力・表現力等の基礎)



友だちの足が当たって壊れた。どうしよう。
(相手の気持ちの受容, 折り合い＝学びに向かう力, 人間性等)

「もう、壊さんとして。せっかく作ったのに。」「だって…。」「大丈夫よ。ここだけ作り直そう。」「ごめんね。」



面白い動きに気付く。
(新しい発見をする＝知識及び技能の基礎)

「よし。直ったよ。」「あ、ここ『カタン』ってなるよ。本物のピタゴラススイッチみたい。」「作り直したから発見できたね。」

この活動の数日前に行われた参観日で、カプラを使った活動が行われました。その活動をきっかけに、ひまわり組ではカプラ遊びが発展していきました。

A児が一人で作っていた「ピタゴラススイッチ」を見て、自分たちも作りたいと3人の男児が作り始めました。最初は、A児を真似するように遊んでいたが、次第にもっと工夫したいという思いをもったり、壊れて作り直していたら面白い動きをする置き方に気付いたりすることができました。

この活動では、『互いに協力する姿』『友だちを許せない姿』『新しい発見に喜ぶ姿』『友だちの思いを受け入れる姿』等様々な姿を見ることができました。

事例1, 2ともに、登園してから設定されている「遊び」の時間に見られた活動です。この2事例を育みたい資質・能力の観点で見取ると、どの行動にもそれらの力が育まれていることに気付きました。更に、丁寧に行動を分析してみると、事例1では特に「運動能力」や「バランス感覚」等、事例2では、友だちとのやり取りの中から特に「言語能力」や「コミュニケーション能力」等も育まれているのではないかと考えることができました。

3 まとめ

4か月が経ち、毎日の遊びには学びがあることを知り、子供たちは、無意識のうちに獲得した学びを次の学びへとつなげ、活動を広げていることにも気付くことができました。子供たちが学びを獲得していることにも驚きましたが、保育者が子供たちの学びを予測して環境を設定したり、遊んでいる様子から環境を変更したりして、学べる環境を用意していることに一番驚きました。そして、子供が獲得した学びを0に戻すことのないように大切につなげていることも分かりました。今後は、これらの学びが小学校でどのように生かされていくべきかを考えながら研修を行っていきたいと思います。

〈乳幼児教育支援センターより〉

乳幼児期の教育では、育みたい資質・能力（「知識及び技能の基礎」, 「思考力・判断力・表現力等の基礎」, 「学びに向かう力, 人間性等」）を個別に取り出して指導するのではなく、遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育てていきます。この資質・能力が小学校にもつながっていきます。